

子供服から伝える衣類循環

2025.11.21

Agenda

- 1 問題定義：届かない「衣類循環」
- 2 着眼点：服の寿命と子供服の価値
- 3 解決策：親子で学ぶワークショップ
- 4 開催場所：Warmth Space
- 5 実施概要とプログラム構成
- 6 制作プロセス：思い出を形に

問題定義：届かない「衣類循環」

現在のCommunity Loopsは**大人の方向け**の施策が中心

一般層にとって循環を知る機会やきっかけが不足

自分事として捉えるための**フック**が足りていない

日常生活で意識するタイミングは少ない



着眼点：服の寿命と子供服の価値

大人の服は長く滞留するが、子供服は強制的に循環する

大人の服の平均年齢

4.9年※1

着用期間

子供服の特徴

1～2年

嗜好変化

廃棄理由

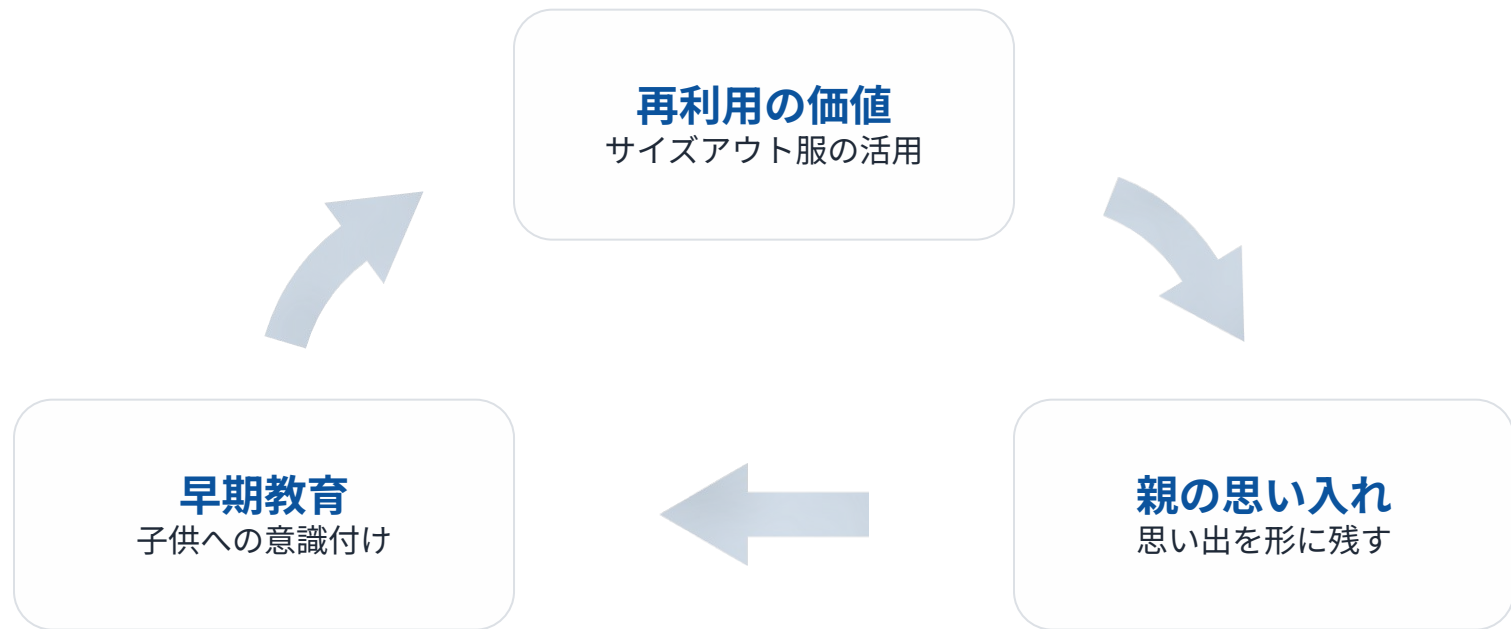
サイズアウト

※1(花王、全国1,000人を対象に実施した「衣類に関する実態調査」より
<https://www.kao.co.jp/igokochi/data2/>)

小さい子の洋服ならば、早く、本当に要らなくなる。
かつ、保護者としての思い出も強いはず。

解決策：親子ワークショップ

3つの要素を掛け合わせた循環教育のアプローチ



実施概要：企画スペック

項目	内容
対象者	子供をもつ親・保護者
開催場所	幼稚園
所要時間	合計 60分
コンセプト	衣類循環をもっと身近に！思い出を形に

開催場所：Warmth Space



川崎市幸区鹿島田2-20-53 山崎ビル202

一時預かり保育を行っている子育て支援施設

不登校支援や「孤立しない子育て」を推進。

安心して子育てができる環境づくりに尽力。

ターゲットである「子供を持つ親」との親和性が高い

理念が一致しており協力体制を築きやすい

プログラム構成：学びと実践

意識変革からアクションまでを繋ぐ60分

0-5分

導入・説明



25-50分

リメイク作業

5-25分

衣類循環の課題共有



50-60分

作品完成・共有

制作プロセス：思い出を形に

着なくなった服を「キーホルダー」へ再生



制作プロセス：思い出を形に

着なくなった服を「キーホルダー」へ再生



これからの展望

- キーホルダーにNFCタグを利用して、
子どもの声を入れてみたい。
- ワークショップ会場で実際に古着を回収してみる。
→今のCommunity Loopsは、ややこしい。
もっと簡単にできないか検討。（選択式にするなど）

